「余裕」と「ゆとり」の意味分析
―ベースとプロファイルの観点から―

李　　澤　熊

キーワード：認知言語学、類義語分析、ベース、プロファイル

1.　はじめに

本稿では、類義関係にある名詞を考察対象とし、認知言語学の枠組みから、相互の意味の類似点･相違点を明らかにする。考察対象とする語は、「余裕」と「ゆとり」の 2 語である。

さて、日本語と韓国語は文構造が非常によく似ているため、日本語は韓国人にとって学びやすい言語であると言われている。しかし、（例えば）助詞の使い分けなど、異なるところもあるため、注意しなければならない。

このような現状を踏まえ、李（2011a）では、いくつかの文法項目と語彙項目を取り上げ、対照言語学研究の観点から分析を行っている。例えば、日本語と韓国語には中国語起源の漢語系語彙が数多く含まれているということもあり、「日韓両言語の（漢語系を含む）語彙の意味の違い」などについて考察している。また、李（2011b）では、＜表 1 ＞のように、「類義関係にある複数の語が韓国語の 1 語に対応する（または、その逆の）例」があることを指摘し、その中でいくつかのペアを取り上げ、各語の意味の類似点と相違点について明らかにしている。

＜表 1 ＞

韓国語	日本語
뒤	後ろ／裏
기분	気持ち／気分
전망	見通し／見込み／展望
여유	余裕／ゆとり
습관／버릇	習慣／癖／病みつき
여기／이곳	ここ
안／속	中（なか）
물고기／생선	魚

本研究はその続きとして、「類義関係にある複数の日本語の名詞が韓国語の1語に対応する例」の中で、「余裕」と「ゆとり」を取り上げ、分析を行い、日本語教育の現場で有効に活用できるような教材作りのための基礎資料の作成を目指していく。

ここで、本稿の構成について簡単に述べておく。

まず、2. では本稿で考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、籾山（2005）を取りあげる。籾山（2005）の研究は類義表現を認知言語学的観点から定義・分類したものである。

次に3. では先行研究を踏まえ、「余裕」と「ゆとり」のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

最後の4. は本稿のまとめである。

2.　前提となる理論

分析に入る前に、本節では、考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、籾山（2005）を取り上げる。

籾山（2005:579-583）の研究は、類義表現の意味の異なりの諸相を、認知言語学の枠組みから明らかにしたものである。以下、その内容を概観する。

まず、類義表現（類義語・類義句・類義文を含む）をプロトタイプカテゴリー（注1）と考え、プロトタイプ的類義表現を「指示対象・指示範囲（プロファイル）が同一である複数の表現（プロトタイプ的類義文：真理条件的意味が同一である複数の文）」と定義し、次のような例をあげている。

例）あした／みょうにち、盲腸（炎）／虫垂炎

　　花子が太郎をなぐった。／太郎が花子になぐられた。

また、「この定義に基づけば、類義表現の意味の違いは、必然的に、同一の事物・事態に対して異なる捉え方・解釈（construal）をすることができるという人間が有する認知能力に還元できることになる」としている。

さらに、プロトタイプから拡張した（非プロトタイプ的）類義表現を次のように定義している。

類義表現：同一の対象を示しうる（指す場合がある）複数の表現

例）動物／犬、木／松［上位語と下位語の関係］

　　門のところに誰からいる。／門の前に怪しい男が立っている。［描写の精密さの異なる文］

　　この花は日本語で「サクラ」と<u>言う</u>／<u>呼ぶ</u>。［一方の語（句）の複数の意味のうち

の 1 つが、他方の語の意味（の 1 つ）と同一］

さて、籾山（2005）は、以上の事物・事態に対する様々な捉え方（の違い）の観点から、類義表現を大きく 10 に分類している。以下、主なものを示す。

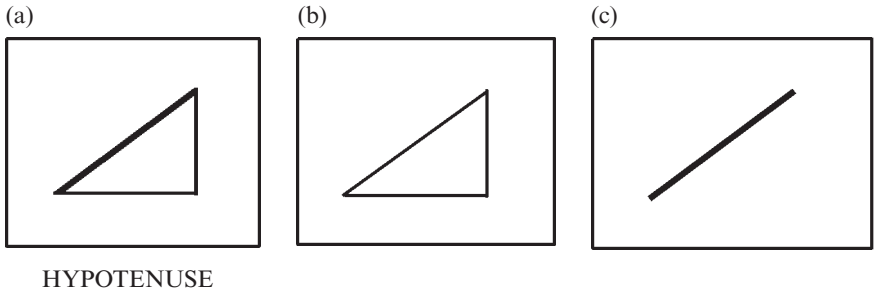
・「ベースは同一であるが、プロファイルは異なる（焦点化・前景化の違い）」
　→「やっと / ようやく」、「A しながら B/B しながら A」
・「プロファイルは同一であるが、ベースは異なる」
　→「land［←→ sea］/ground［←→ air］」、「陸上［←→海上］/ 地上［←→空中・地下］」
・「視点の違い」
　→「shore［視点が水上］/coast［視点が陸上］」、「A さんが名古屋から東京に行った。
　　/A さんが名古屋から東京に来た。」

本稿で考察する「余裕」と「ゆとり」は、籾山（2005）で分類されている類義表現のタイプの中で「ベースは同一であるが、プロファイルは異なる（前景化・焦点化の違う）」ものであると考えられる（詳しくは後述）。

それでは、ここで本稿で用いる「ベース（base）」と「プロファイル（profile）」という用語について簡略に説明する。これらは Langaker（1987,1988）の用語で、辻（2002）は、次のように解説している。

> 認知文法は、百科事典的意味論の立場をとり、ことばの意味は複数の認知領域において記述される。ある特定の認知領域においても、全ての構造が等しく扱われるのではなく、焦点化され、際だちの大きいプロファイルと呼ばれる部分と、そのプロファイルの背景的要素として機能するベースに分かれる。
>
> 例えば、直角三角形の「斜辺」という表現の意味記述においては、空間という認知領域における形状が最も重要である。この領域において、想起される概念内容の全体、すなわち直角三角形の形状全体がベースとなる。というのは、「斜辺」の意味を規定する場合には、1 本の直線のみを想起するだけでは不十分であり、直角三角形という 3 本の直線からなる形状全体が概念化されなければならないからである。しかし、「斜辺」ということばは、当然この形状全体を指し示すわけではない。言語使用者は、この形状全体を心に思い浮かべたうえで、その部分構造である斜めの直線に注目し、その部分のみに言及する場合の表現が「斜辺」である。このように、特定の言語表現が直接指し示す部分をプロファイルと呼ぶ。（p.236、下線は引用者）

＜図1＞ Langacker（1988:59）



3. 「余裕」と「ゆとり」の意味分析

本節では先行研究を踏まえ、「余裕」と「ゆとり」のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

3.1. 先行研究

「余裕」と「ゆとり」の意味を分析した先行研究として、辞書・辞典類をのぞけば管見の限りでは見あたらない。なお、辞書・辞典類における2語の意味記述は、以下に示すように堂々巡りの説明が多く、それぞれの意味は必ずしも明確になっているとは言い難い。

『大辞線』第2版
「余裕」
①必要分以上に余りがあること。また、限度いっぱいまでには余りがあること。
「金に－がある」「時間の－がない」「まだ席に－がある」
②ゆったりと落ち着いていること。心にゆとりがあること。
「－の話し振り」「周りを見る－もない」
「ゆとり」
物事に余裕があり窮屈でないこと。余裕。「経済的に－がない」「心に－を持つ」

『大辞林』第3版
「余裕」
①あせらずゆったりとしていること。「－のある態度」
②余りのあること。ありあまること。「時間に－がある」

「ゆとり」

物事に余裕があって窮屈でないこと。余裕。

「－のある部屋」「－のある生活」「時間に－をもたせる」

『明鏡国語辞典』第 2 版

「余裕」

限度いっぱいまでにまだあまりがあること。ゆとり。時間・空間・数量・経済・精神などにわたって広く使う。

「納期までにまだ三日の－がある」「この部屋に木棚を入れる－はない」「車を買い替える－などない」「心に－を持つ」「－たっぷり」

「ゆとり」

空間的・時間的・精神的に必要以上のあまりがあって、きゅうくつでないこと。余裕。

「－のある部屋」「出発時間まではまだ－がある」「予算に－がある」「他人のことを考える－がない」

『新明解国語辞典』第 6 版

「余裕」

いざという時のために、全力を出しきる（全部を使いきる）ことなく、必要を満たしたあとに、多少の余力・余地などを残すこと。

「－が出来る」「ぜいたくをする－は無い」「レースが終わってもグラウンドを一周する－を見せる」「－を見込む」

「ゆとり」

当面の必要を満たしたあとに、自由に使うことが出来る空間・時間や体力、他のことを考えるだけの気力が有ること。

「敷地にガレージを取るだけの－が無い」「－のある暮らし」「日程に－を持たせる」

以上を踏まえて、本稿では「余裕」と「ゆとり」のそれぞれの意味と、相互の意味の類似点・相違点について的確な記述を試みる。

3.2. 「余裕」の意味

3.2.1. 意味①：＜ある物事が＞＜許容される限界（量）に達するまで＞＜あまりがあること＞

（1）団体さんが全員入っても、まだ席には余裕があります。（101-120.002.29611）

（2）キットの出力容量ではまだ本数を増やす余裕があります。（061-080.009.02374）
（3）駐車場には若干まだ余裕があるが、次々に車がやってくる。（001-020.003.49305）
（4）僕も種目は400mハードルですが、ラストまでに余裕があるかないかでは伸び方が全然違います。（001-020.011.49863）

まず、以上の例ではそれぞれ「人」「本数」「車」「体力」という物事が問題になっていると考えられる。

また、文の状況からも分かるように、何らかの限界（量）が想定されていると考えられる。つまり、それぞれ「席数」「出力容量」「駐車場のスペース（車を停められる台数）」「競走距離」というようにとらえることができる。

さらに、「まだ」「若干まだ」という表現からも分かるように、問題となっている物事は「許容される限界（量）に達するまであまりがある」というように解釈することができる。

3.2.2.　意味②：＜主体（人間）の＞＜行為・心的状況に＞＜焦りがなく＞＜落ち着きがあること＞

（5）これは掲示版にも書いたことだが、個人戦が始まる前、私たちには妙な余裕（？ゆとり）があった。（121-140.005.15586）
（6）其の先は大きな一枚岩ですが濡れていて滑りやすい、もし滑り落ちれば約3~4mで水の中か石に足腰をぶつける可能性大･･･なので諦めて降りようとしたら同行人は滝の様に流れ落ちる水に向かってVサインしている、私は必至なのに･･･どうして余裕（＊ゆとり）が有るのか？（061-080.004.46379）
（7）今から本気で実践力アップ活動を行えば、実習や採用試験に余裕（＊ゆとり）で臨めます。（081-100.004.37811）
（8）安田は愛想よく二人を迎え、どんな質問にも余裕（＊ゆとり）で答える。（101-120.002.14846）

以上の例では、意味①と違って主体の行為や心的状況が問題なっていると考えられる。つまり、主体が行う行為や心的状況の様子に注目し、焦りがなく落ち着いていることを表しているととらえられる。例えば、例（7）は「（普通、試験を受ける際は緊張したり、あがったりするが）実践力アップ活動を行えば、焦りもなく落ち着いた状態で試験に臨める」というように解釈することができる。

3.3. 「ゆとり」の意味：＜ある物事が＞＜物理・抽象空間に＞＜許容されるほど＞＜あまりがあること＞

（9）店内は空間にゆとりがあり、カウンター台も広々しています。（081-100.005.09812）
（10）洗剤はもちろん完備でシャワーのスペースもゆとりがあった。（121-140.007.29025）
（11）ご予算にゆとりがあれば、完全エコ住宅も可能です。（081-100.007.30472）
（12）昔は仕事ももう少し、時間的･精神的ゆとりがありましたよね。（001-020.012.41402）

まず、以上の例では「店内」「シャワースペース」というような物理的空間と「予算」「時間・精神」というような抽象的空間が想定できると考えられる。

また、以上の例から分かるように「（具体的に示されてはいないものの）何らかの物事」が当該の「物理・抽象空間」の中に収まるかどうかが問題になっているととらえることができる。例えば､例（9）は「店内の空間が広くて営業に必要な諸設備を揃えてもあまりがある」というようにとらえることができる。また、例（12）は「昔は、設けられた時間が少しあまるくらい（焦ったり慌てたりせず、精神的に安定した状態で）問題なく仕事をこなせた」というように解釈することができる。

3.4. 類似点（同一のベース）

以上では「余裕」と「ゆとり」のそれぞれの意味を考察した。分析結果から分かるように「余裕」が意味①で用いられる場合に「ゆとり」と類義関係にあると考えられる。それは、例（5）～例（8）のように「余裕」が意味②で用いられる場合は「ゆとり」で言い換えてみると不自然か非文になることからも分かる。

以下では「余裕」意味①と「ゆとり」について､「ベース」と「プロファイル」の概念を用いて、2 語の類似点・相違点を明らかにする（注 2）。

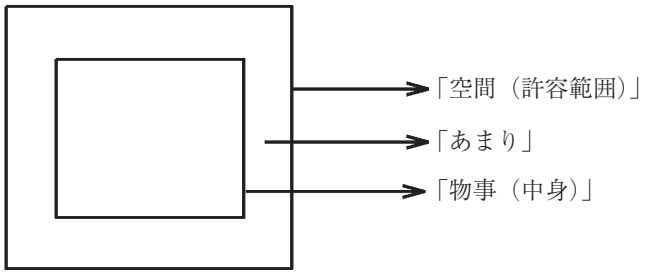
まず、2 語が類義関係にあることを以下の例に基づき、確認する。

（13）ある程度お金に余裕（ゆとり）があれば是非活用したい制度です。
（121-140.001.02276）
（14）資格手当てを含め、同年代より経済的に余裕（ゆとり）がある。
（021-040.010.13362）
（15）天井までゆとり（余裕）があるので、車いすも楽々ですね。（061-080.008.47916）
（16）気持ちにゆとり（余裕）があると、人の話もちゃんと聞けるようになりますね。
（121-140.004.49868）

以上の例では、「余裕」を「ゆとり」に、「ゆとり」を「余裕」にそれぞれ言い換えても文の持つ意味はほとんど変わらない。例えば、例（13）は「当初予定されていたところに支出をしたあとにもお金にあまりがあれば（つまり、予算が許容範囲内に収まれば)、その制度のために使いたい」というように解釈することができる。また、例（16）は「気持ちの許容範囲にあまりが出てくる（焦ったり慌てたりせず、気持ちが安定している）と、人の話も聞ける（人のことまで気が回る）ようになる」というようにとらえることができる。

以上のことから、この2語は＜ある物事に＞＜あまりがある＞ことを表すという類似点（同一のベース）を持っていると考えられ、次の＜図2＞のように示すことができる。

＜図2＞「余裕」と「ゆとり」（同一のベース）



3.5.　相違点（プロファイルの違い）

それではここで、「余裕（意味①)」と「ゆとり」を取りあげ、意味の相違点を明らかにする。

次の例を見てみよう。

（17）初期のころは生きていくことが精一杯で文明が発達する余裕（？ゆとり）がありませんでした。(021-040.008.34582)

（18）C280になるとさらにパワフルなので高速道路でも余裕（？ゆとり）がある加速を披露してくれます。(021-040.009.12056)

まず、以上の例において「余裕」を「ゆとり」で言い換えてみると、この文脈では不自然な文となる。その理由は、「余裕（意味①)」は「物事（中身)」に注目して述べる場合に用いられるのに対して、「ゆとり」は「空間（許容範囲)」に注目して述べる場合に用いられると考えられるからである。

このことを例文に基づいて説明すると、まず例（17）は概略「人間の努力（営み）が

普段の生活だけで精一杯である（限界の状態に達している）ため、文明の発達までには及ばない」ことを表していると解釈でき、「余裕」が用いられている。つまり、「人間の努力（営み）」という「物事（中身）」に注目して述べている文であると考えられる。この場合、「ゆとり」が用いられにくいのは、「（人間の努力を中身とする）空間（許容範囲）」に注目するということが考えられないからである。

また、例（18）は「C280の加速力は、高速道路の限界速度に達しても余力がある」いうようにとらえられ、「余裕」が用いられている。つまり、「加速力」という「物事（中身）」に注目して述べている文であると考えられる。この場合、「ゆとり」が用いられにくいのは、「（加速力を中身とする）空間（許容範囲）」に注目するということが想定しにくいからである。

続いて、次の例を見てみよう。

（19）それでもまだ駐車スペースに空きがあり、余裕（＊ゆとり）で駐車。
（061-080.005.41782）

（20）7〜8人は余裕（＊ゆとり）で入ることができるくらいの大きな湯船。
（081-100.002.39864）

「余裕」は上の例のように、格助詞「で」を伴って用いることができる。この場合の「で」の意味は「動作・作用の行われる様態」を表していると考えられ（注3）、「駐車する」「7〜8人が入る」際の様態が「余裕」であるというようにとらえることができる。

さて、これらの例において問題になっていることは、「（車を）駐める」ことと「（人が）入る」こと、つまり「物事（中身）」の様態であり、それが限界に達するまでは「あまり」があるというようにとらえられる。すなわち、「余裕」は「物事（中身）」に注目して述べる場合に用いられるため、「で」と問題なく共起できると考えられる。この場合、「ゆとり」を用いることができないのは、これらの例は、あくまでも「（車を）駐める」ことと「（人が）入る」こと、つまり「物事（中身）」に注目して述べる文であり、「空間（許容範囲）」に注目するということが想定しにくいからであると考えられる。

今度は逆に「ゆとり」を「余裕」で言い換えると不自然な例を見てみよう。

（21）マツダは「スポーツカーのスマートさとSUVのゆとり（？？余裕）を融合」っていっているけど、（以下略）（041-060.006.46987）

（22）お庭やウッドデッキなども含めて最大限のゆとり（？？余裕）を生む空間演出をご提案いたします。（001-020.013.45535）

（23）同じマンションの方とは「こんなにゆとり（？余裕）がある物件にはきっともう

巡り会えないね」なんて会話も。(001-020.010.06058)

(24) a（部屋の見学に訪れて）この部屋、ゆとり（？余裕）があるからいいね。(作例)

b この部屋、家具を入れてもまだ余裕があるからいいね。(作例)

まず、以上の例において「ゆとり」を「余裕（意味①)」で言い換えてみると、この文脈では不自然な文となる。その理由は、「ゆとり」は「空間（許容範囲)」に注目して述べる場合に用いられるのに対して、「余裕（意味①)」は「物事（中身)」に注目して述べる場合に用いられると考えられるからである。

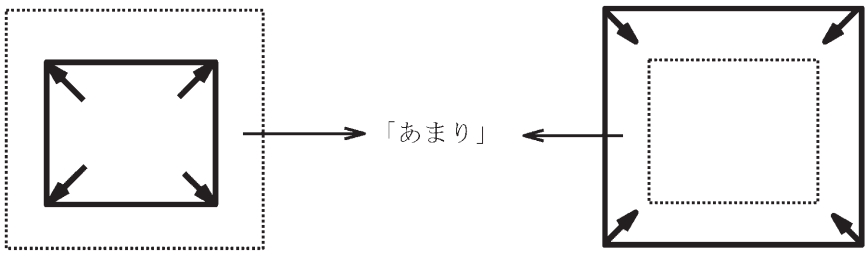
このことを例文に基づいて説明すると、まず例（21）は文の状況から分かるように、車の内部空間の広さ、つまり「空間（許容範囲)」に注目して述べる文であると考えられる。従って、この文は「SUVのような広い空間を持っているため、人や荷物を載せても空間にあまりがある」というようにとらえることができる。この場合、「ゆとり」を用いると不自然になるのは、「人や荷物」といった「物事（中身)」に注目することが想定しにくいからである。

また、例（22）は「空間演出をご提案いたします」という表現から分かるように、「空間（許容範囲)」に注目して述べている文であるため、「ゆとり」は問題なく用いられるが、「余裕」は不自然な文となる。

さらに、例（24）aとbは同じく部屋の広さが問題になっているが、「余裕」に容認度の差が現れる。つまり、例（24）aは文の状況から分かるように「空間（許容範囲)」に注目して述べているため、「余裕」を用いると不自然な文となるが、例（24）bは「家具」という「物事（中身)」に注目して述べているため、「余裕」が問題なく用いられるということである。

以上、「余裕」と「ゆとり」の相違点について見てきたが、このことを図で示すと次のようにまとめられる。

＜図3＞：「余裕」　　＜図4＞：「ゆとり」



→プロファイル：「物事（中身)」に注目して述べる場合に用いられる

→プロファイル：「空間（許容範囲)」に注目して述べる場合に用いられる

4. まとめ

以上、本稿では「余裕」と「ゆとり」を取りあげ、認知言語学の枠組みから、2 語の意味の類似点・相違点を明らかにした。以下、分析結果を簡単にまとめておく。

まず、2 語の個別の意味の分析結果をまとめると次のようになる。

「余裕」

①＜ある物事が＞＜許容される限界（量）に達するまで＞＜あまりがあること＞

②＜主体（人間）の＞＜行為・心的状況に＞＜焦りがなく＞＜落ち着きがあること＞

「ゆとり」

＜ある物事が＞＜物理・抽象空間に＞＜許容されるほど＞＜あまりがあること＞

次に、2 語の意味の類似点・相違点については、以下のようにまとめられる。

「類似点（同一のベース）」

＜ある物事に＞＜あまりがある＞ことを表す。

「相違点（プロファイルの違い）」

「余裕」→「物事（中身）」に注目して述べる場合に用いられる。

「ゆとり」→「空間（許容範囲）」に注目して述べる場合に用いられる。

注

注 1　河上（1996）は「カテゴリー化」について次のように述べている。

私たちは日常生活において、様々な事物を知覚し、経験する。その量は膨大なものであり、一つ一つを記憶にとどめようとすると大変なことになる。しかし、私たちはそれらの事物を効率的にグループ分けすることができる。つまり私たちには、事物から何らかの類似性や一般性を抽出することで、事物間にあるまとまりを認識し分類することのできる能力が備わっていると考えられる。このような事物をグループにまとめる認識上のプロセスを、一般的にカテゴリー化という。（河上（1996:27））

また、言語の様々な側面に関するカテゴリー化の問題について、プロトタイプ論的見方を採用したことを認知言語学の根幹をなす特徴の一つとしてあげている。

さらに、プロトタイプを「カテゴリーの成員の中でもより中心的で、そのカテゴリーを代表すると思われるもの（河上（1996:209））」と定義した上で、次のように述べている。

そして私たちが事物をカテゴリー化する場合、そのプロトタイプを核とし、その周りにさまざまな成員を位置づけることで、全体を構造化しているとみなす。この考えに基づけば、カテゴリーの成員は、その成員らしさという点では一様ではなく、中にはプロトタイプに近いもの

もあれば、それとはかけ離れた周辺的なものがあったり、成員間で段階性がみられることになる。（河上（1996:32））

注2　この2語にはいわゆる文体差もあると考えられるが、今回の考察では特に考慮しないことにする。

注3　『大辞線』、『明鏡国語辞典』を参照した。なお、例としては「急ぎ足で歩く」「笑顔で挨拶する」などがあげられている。

参考文献

李澤熊（2010）「『たちまち、あっという間に、またたく間に』の意味分析－ベースとプロファイルの観点から－」『言語文化論集』第31巻2号，pp.37-48，名古屋大学大学院国際言語文化研究科.

李澤熊（2011a）「日本人韓国語学習者のための日韓対照言語研究」『語研紀要』第36巻第1号，pp.171-190，愛知学院大学.

李澤熊（2011b）「韓国人日本語学習者のための類義語分析－名詞を中心に－」『言語文化論集』第33巻1号，pp.3-16，名古屋大学大学院国際言語文化研究科.

河上誓作（1996）『認知言語学の基礎』，研究社出版.

北原保雄（2011）『明鏡国語辞典』第2版，大修館書店.

辻幸夫（2002）『認知言語学　キーワード事典』，研究社.

松村　明（編）（2006）『大辞林』第3版，三省堂.

松村　明（監修）（2012）『大辞泉』第2版，小学館.

籾山洋介（2005）「類義表現の体系的分類」,『日本認知言語学会論文集』第5巻，日本認知言語学会，pp.579-583.

山田忠雄・柴田武他（編）（2012）『新明解国語辞典』第6版，三省堂.

Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar Vol.1*, Stanford: Stanford University Press.

Langacker, R. W. (1988) "A View of Linguistic Semantics." In Brygida Rudzka-Ostyn,ed., *Topics in Cognitive Linguistics*. pp.49-90. Amsterdam: John Benjamins.

例文出典

（1）NINJAL-LWP for TWC (http://corpus.tsukuba.ac.jp/)